

議事録

会議名	社会福祉法人総合施設美吉野園 美吉野ごゆり園 第5回運営推進会議																			
開催日時	令和7年12月19日(金)14:00～14:45																			
開催場所	社会福祉法人総合施設美吉野園 4階小会議室																			
参加者	<div>利用者 —</div> <div>利用者の家族 1名</div> <div>地域住民の代表者 1名</div> <div>大淀町地域包括支援センターの職員 1名</div> <div>大淀町の職員 1名</div> <div>看護小規模多機能型居宅介護について知見を有する者 2名</div> <div>法人職員 1名</div> <div>出席7名 欠席1名</div>																			
報告事項	<div>1. 開会および成立報告</div> <div>＊出席状況: 委員6名が出席し、設置運営規定第6条第1項に基づき、委員の過半数以上の出席により会議の成立が報告された。</div> <div>＊配布資料の確認: 会議資料、11月・12月の活動報告、広報用チラシが配布された。</div> <div>＊進行: 規定に基づき、長岡議長が議事進行を務めた。</div> <div>2. 11月・12月活動報告</div> <div>※資料①「運営推進会議11月・12月の活動報告」参照</div> <div>＊利用状況: 登録者は8名で変動なし。 **稼働率は27.6%**</div> <table><tr><td>要介護1</td><td>要介護2</td><td>要介護3</td><td>要介護4</td><td>要介護5</td><td>計</td><td>平均要介護度</td></tr><tr><td>3名</td><td>3名</td><td>1名</td><td>－</td><td>1名</td><td>8名</td><td>2.1</td></tr></table> <div>＊入退院状況: 11月は、入院1名・退院2名、12月は、入院0名・退院1名。 全員が退院後も引き続きサービスを利用している。</div> <div>＊個別支援: 退院後の状態に合わせ、家族への介護技術の習得支援(オムツ交換や調理方法のアドバイス)や、理学療法士による自宅訪問と生活環境調整を柔軟に実施した。</div> <div>＊事故報告: 施設内での事故は0件であったが、在宅での就寝中に転倒し頭部を打撲した事例が1件発生し、訪問や電話連絡を行いながら経過観察した。</div> <div>3. 行事・地域連携・研修状況</div> <div>＊行事: 11月に文化祭(演目鑑賞、ぜんざいや抹茶の提供)に参加し、12月にはクリスマス会を予定している。利用者からは「職員と一緒に調理して食べることが嬉しい」との声があった。</div> <div>＊地域交流: 「文化祭」に参加し他部署の利用者やボランティアの方々と交流した。 次年度からは「やすらぎカフェ」を2ヶ月に1回開催し、地域交流を深める計画である。</div> <div>＊職員研修: 朝の5分間ミーティングを活用し、制度の再認識や事例共有を行っている。 特に、セラピストによる在宅生活の動作評価ができる点を施設の強みとして再確認した。</div> <div>＊課題: オンコール時の状況判断の難しさが課題として挙がっており、フィジカルアセスメントの強化による異常の早期発見に努めている。</div> <div>4. 運営および広報活動に関する協議</div> <div>＊利用者アンケート: 3月の開設から短期間ながら「満足・非常に満足」との回答を得ており、これを励みにケアの質を向上させる。</div> <div>＊認知度向上: 地域への周知がまだ不十分であるため、チラシの配布を検討している。 また、民生委員への配布協力依頼や、老人会での説明の機会の確保を目指す。</div> <div>＊SNSの活用: 職員のモチベーション向上や施設の雰囲気(VR活用やインタビュー形式など)を伝えるため、Instagramの更新を継続し、広報に繋げる。</div>						要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度	3名	3名	1名	－	1名	8名	2.1
要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度														
3名	3名	1名	－	1名	8名	2.1														

	<p>* 病院連携: 病院側が「退院後は即施設」と判断する前に、在宅復帰の選択肢として当サービスを早期に提案してもらえるよう、働きかけを強化する。</p> <p>5. 委員からの意見・その他</p> <p>* 在宅介護の現状: 委員より、在宅でのヒヤリハット対策の難しさが指摘され、施設と在宅での情報共有の重要性が語られた。</p> <p>* 地域課題: 地域包括支援センターより、高齢者虐待(言葉の暴力や経済的虐待など)の相談が増加傾向にあることが報告された。</p> <p>* 制度周知: 介護保険における医療費控除や障害者控除の適用について、利用者への周知が必要であるとの意見が出された。</p> <p>* 人材不足: 訪問介護の人材不足が深刻な中、当施設のような包括的な支援体制がその隙間を埋める役割を果たすことが期待されている。</p> <p>* 今後の見通し: 子どもたちが成長し独立した後に、高齢者のみの世帯が取り残される「老老介護」や、介護需要の増大が予測される。これに対し、専門家による先行きを見据えた分析の重要性が共有された。</p> <p>* ニーズの変遷: 支援が必要な層(要支援者など)のサービス利用が若干減少傾向にある。</p> <p>* 要因の推察: 町内での「交流の場」や「自主的な活動の場」が広がっており、申請を検討していた層がそれらの場に参加することで様子を見ている可能性がある。一方で、状態が重篤化し、より重い「介護」区分へ移行しているケースも想定される。</p> <p>* 待機状況: 保育現場での待機児童と同様に、高齢者福祉においても優先順位や待ち時間の問題(待機日数など)が厳格な状況にある。</p> <p>* 周知の難しさ: 事業内容を広く知らせること(周知)に大きな難しさを痛感している。</p> <p>* 体制の強化: 現場の職員は利用者支援に注力しているため、今後は特別養護老人ホーム(特養)の相談員が中心となり、積極的に広報・アピール活動を展開していく方針である。</p> <p>* 大淀町の期待に応えられるよう、職員一同取り組んでいく決意が示された。</p> <p>* 出席者に対し、今後も継続的な意見提供や支援、情報の共有が依頼された。</p>
評価、要望、助言、意見交換	
次回日時	令和8年2月20日(金) 14:00～